



## 第44回 卒業証書授与式 学校長 式辞

雪解けの水音に、確かな春の足音を感じるこの佳き日、本日は、本校 PTA 会長様をはじめ、多数の御来賓の皆様、ならびに保護者の皆様におかれましては、御多用の中、また春浅く足元の悪い中、本校第44回卒業証書授与式に御臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

ただいま、卒業証書を授与いたしました70名の卒業生の皆さん、御卒業、おめでとうございます。

私がこの青葉中学校に赴任し、皆さんと出会ってから、ちょうど1年が経ちました。たった1年という月日ではありましたが、皆さんがこの3年間で、どれほど素晴らしい成長を遂げてきたかは、皆さんが紡いできた「言葉」と、日々の「姿」がはっきりと証明しています。

本日御臨席いただいている、新札幌わかば小学校の校長先生をはじめ、小学校の頃から皆さんを見守ってくださっている地域の方々にも、今日の皆さんの姿は、見違えるほど立派に映っていることでしょう。

振り返れば1年生の時、皆さんは「START」というスローガンを掲げました。「笑顔を大切に、チームとなって冒険しよう。みんなで喜び合い、『ありがとう』が言える学年を目指して」。期待と不安が入り交じる中で、皆さんは、この言葉を道しるべにしました。新しい環境の中で互いを思いやり、笑顔で声を掛け合い、時には失敗しながらも、揺るぎないチームの土台をしっかりと築き上げました。

2年生では、「Next Stage」という言葉を胸に刻みました。「1年生での頑張りを確実に次へつなげ、更なる高みを目指そう」という、強い意志です。先輩としての自覚をもち始め、後輩を優しく導きながら、学習や部活動において自分たちの殻を破り、たくましくステップアップしていく姿は、本当に頼もしいものでした。

いよいよ最高学年として迎えた3年生。学年目標は「サードインパクト」。「学校で一番影響力があり、責任感を伴う学年であることを自覚して生活しよう」という、決意と覚悟に満ちた言葉です。皆さんは見事に、この高い目標を体現しました。

私にとって特に印象深かったのは、6月の東北方面への修学旅行です。赴任してまだ間もない私のところに、皆さんはわざわざやって来ては、得意げに「なぞかけ」を披露してくれました。私の様子を気遣うように、時にはボディガードのように、私の周りを囲んで頼もしく振る舞い、そしてユーモアたっぷりに場を和ませてくれる。皆さんのその底抜けの人懐っこさと優しさに触れ、私の心はすっかり温かくなり、「青葉中学校に来て本当に良かった」と、心から感じた瞬間でもありました。

しかし、ひとたび旅行が終わり、日常の学校生活に戻れば、そこには見事な「けじめ」がありました。9月の学校祭。そして10月の陸上競技大会や合唱コンクール。あの時、皆さんが見せた、目標をつらぬく真剣なまなざしを、私は忘れることができません。クラスの仲間とぶつかり合い、時に涙を流しながらも、どんなことにも決して手を抜かず、もてる力のすべてを出し切り、全力で挑んでいく姿勢。その圧倒的な熱量と迫力こそが、まさに「サードインパクト」でした。皆さんのその姿は、後輩たちに、そして私たち教職員の心にも、強烈な影響を与えました。

ユーモアを忘れず、人を笑顔にする優しさをもちながらも、やる時は徹底的にやる。そんな皆さんの底知れぬパワーと、メリハリのある立派な姿を、私は今日、校長として思い切り、そして心から讃えたいと思います。本当によく頑張りました。

4月からは、それぞれが新しい「ネクスト・ステージ」へと進みます。

皆さんのこれからの人生は、誰かが結末を決めた台本を演じる舞台ではありません。皆さん自身がペンを握り、真っ白なページに自由に物語を書き込んでいく「新作のストーリー」であり、皆さん自身がその物語の「主人公」であり「監督」です。

長く続く人生の物語の中では、時には思い通りにいかない展開や、冷たい雨が降る悲しいシーンもあるでしょう。しかし、何の波乱もスパイスもない、ただ平坦なだけのストーリーほど、退屈なものはありません。目の前に

高い壁が現れたなら、それは皆さんの人生の物語が、より面白く、より感動的になるための「伏線」です。3年間の学校生活で見せてくれた、あのユーモアと、タフな心があれば、皆さんは、どんな困難な壁すらも、物語を最高に盛り上げる、鮮やかな見せ場に変えてしまえるはずです。どうか、自分自身の人生の、最高に魅力的な主人公であってください。

保護者の皆様、本日はお子様の御卒業、誠におめでとうございます。心身ともにたくましく成長されたお子様の晴れ姿に、感慨もひとしおのことと存じます。今日までの道のりには、決して楽しいことばかりではなく、数え切れないほどの御苦勞や御心配があったことでしょう。私たち教職員一同、大切なお子様をお預かりし、共に歩ませていただいた日々に、心から感謝申し上げます。また、保護者の皆様には、本校の教育活動に対し、常に温かい御理解と、強力な御協力を賜りましたこと、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

地域の皆様、御来賓の皆様、日頃より本校の生徒たちを温かく見守り、お力添えをいただき、誠にありがとうございます。卒業生たちは、本日をもって学び舎を巣立ちますが、どうか今後とも、地域の温かい人生の先輩として、変わらぬ御指導と御鞭撻をお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。長く厳しい冬を越え、春の柔らかな光を浴びて一斉に芽吹く「青葉」のように、皆さんが自分だけの美しい葉を大きく茂らせ、彩り豊かな人生のストーリーを描いていくことを、教職員一同、心より祈念しております。

皆さんの輝かしい未来に、幸多からんことを祈りつつ、式辞といたします。

令和8年3月13日  
札幌市立青葉中学校  
校長 渡辺 義頭

## 送辞

暖かな春の光に包まれる今日の佳き日に、3年生の皆さんが晴れてご卒業の日を迎えられたことを、在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

3年生の皆さんが、今日でこの学校を離れてしまうのだと思うと、胸がいっぱいで今まで先輩方から学んだ数々の思い出が頭をよぎります。

数多くの思い出がある中で、特に印象に残っているのは、部活動です。様々な場面で先頭に立ち、私たち後輩がミスをして、責めるところか明るく声を掛けて励まし、ミスを取り返してくれました。そんな先輩の頼もしさと温かさに、何度も勇気をもらいました。

そして、思い出は部活動だけではありません。陸上競技大会では、3年生のクラスの仲の良さから生まれるチームワーク、仲間を心から応援し合うその姿に、「私たちもあなりたい。」と強く思いました。学校祭では、自分たちが率先して行事を盛り上げようという気持ちが、参加態度から伝わってきました。そして合唱コンクールでは、学級閉鎖などがありながらも、3年生が体育館に響かせた聞く人全ての心に響く、あのきれいな歌声は忘れません。

先輩方が見せ続けてくれた大きな背中、私たち在校生にとって憧れでした。先輩方が受け継いでこられた青葉中学校の伝統を、次は私たちが受け継ぎ、この学校をより良いものにしていきます。3年生は卒業してそれぞれの道に進み、この先困難にぶつかることもあるかと思いますが、そんな時は、この青葉中学校で過ごした日々を思い出してください。仲間たちと協力し、努力を重ねた日々は、必ず皆さんの力になるはずです。

最後になりますが、3年生の皆さんのこれからの未来が、輝かしいものであることを心から願い、送辞とさせていただきます。

令和8年3月13日  
在校生代表生徒

## 答辞

積雪の多かった冬もようやく終わりを迎え、雪解けと共に穏やかな春の訪れを感じられる季節となりました。

本日は私たち卒業生のために、このような温かな卒業式を開いてくださり、本当にありがとうございます。また、お忙しい中ご出席いただきましたご来賓の皆様、お世話になった先生方、保護者の皆様、在校生の皆さんのお陰で、旅立ちの日を迎えることができました。卒業生一同心より感謝いたします。

この3年間はあっという間でしたが、たくさんの思い出ができました。振り返れば、どの瞬間も私にとって大切な時間だったと感じます。3年前、私たちは少し大きめの制服に身を包み、期待と少しの緊張を胸に、中学校生活の第一歩を踏み出しました。

1年生では、初めての部活動に緊張していましたが、先輩方が練習中や休憩時間に優しく話しかけてくださったおかげで、少しずつ部活動を楽しめるようになりました。思いやりある姿に憧れ、私も後輩に声をかけられるような先輩になりたいと思い、練習に真剣に取り組むようになりました。また、試合で仲間に応援してもらえたことがとても嬉しく、大きな励みになりました。

2年生に進級し、中堅学年になり、初めての後輩もできました。陸上競技大会では、記録にとらわれず一人一人が主役となって全力を出し、応援を絶やさず団結することができました。合唱コンクールでは一年生で経験したことを活かし、自分たちで考えて練習することができました。数々の行事を通して私達は、仲間と協力して物事に取り組み、大切さと挑戦することの意味を学びました。成功することもあれば、思うようにいかないこともありました。しかし、その一つ一つの挑戦が私たちを大きく成長させ、次の挑戦へ進む力となりました。

3年生になり、たくさんのことが最後となりました。行事や仲間との日々がすぎていく中で、私に時間の速さを感じさせました。3年生最大行事の修学旅行では仙台に行き、東日本大震災の話を知りました。ずっと一緒にいた人がある日突然いなくなった。その話を聞いた時、私は大きなショックを受けました。私には想像もできないことでした。しかし、それでも前向きに歩んでいる人たちの姿を見て、私はこれまで以上にこれからの人生を悔いのないよう、周りの人と支え合いながら一瞬一瞬を大切に生きていきたいと思いました。

私たちは3年間、多くの方々に支えられて成長してきました。筋肉、洋画、ゲームが大好きで面白い話をしてくれた英語の先生。隣の教室まで聞こえる程元気な笑い声で朗らかな気持ちにさせてくれた国語の先生。いつも私たちを楽しませようと頑張ってくれた理科の先生。席に座っているとよく話しかけ見守ってくれた体育の先生。私たちを優しく、時には厳しく指導してくれたかっこいい社会の先生。いつも給食の時に現れみんなのお母さん的存在の栄養教諭の先生。その他たくさんの先生方や職員の方々に支えられた3年間でした。

また、私たちの一番近くで見守り、支えてくれた保護者の皆様。心配をかけたこともあったかもしれませんが、いつも私たちの味方でいてくれました。いつも助けてくれました。本当にありがとうございました。これからも私たちの成長を見守ってください。そして、高校でもサポートをよろしくお願いします。お弁当を楽しみにしています。

1、2年生の皆さん。次は皆さんが青葉中学校をさらに盛り上げていってください。仲間や先生方がきっと力になってくれます。

3年生のみんな。自分は人前で話すことが苦手だったけど、みんなの協力や優しさに何度も救われました。本当にありがとう。これからはそれぞれ別の進路に進んでいけるけど、この仲間と過ごした時間や、支え合った日々を忘れません。離れていても青葉中での絆を大切にしながら、それぞれの場所で頑張っていきましょう。

最後になりますが、青葉中学校のますますのご発展を心より祈念して答辞とさせていただきます。

令和8年3月13日

卒業生代表生徒